

音の流れを考え、そこに独自の理論や想像を加えていく。音が形を作り、形が音を作る。音の流れを想像することは『CAVE 340』において不可欠である。私にとって重要なのは、音という目には見えない存在がどのように進み、あるいはどう転ぶのかという想像である。音の特性について最低限の科学理論を頭に入れた上で、想像力を働かせる方が表現者としての理にかなっている。

「造形の中空は音の通り道」という大きな意味を得て『CAVE340』は成立する。

音は振動であり同時に波であるそうだ。想像の世界を形にしていく表現者である私は、音の粒子が飛び交ってそれが出口にたどり着くまでの道にちょっとしたいたずらや障害を作り、彼らを困らせる。それに耐えて出口までたどり着いた音だけが人の耳に入ってくる。あなたの耳は、その困難を潜り抜けた音と出会うのだ。

目に映る形の内側に音の産道がある。そんな想像の中から生まれてきた造形に目を向け、耳を傾けていただきたい。

2025年2月 山田浩之